

■渡部斧松 開墾事業家。多くの先人が挫折した未開発の原野を開墾し、移住農民の開田によって、渡部村が誕生。
わたなべおのまつ
松平定信引退1793＝ 秋田藩領山本郡檜山で、兄とともに藩郡方に勤め開発に携わる足輕渡部惣十郎の長男に生まれる。

伊能測量始・1800＝ 7歳：この頃から、文字を習い、

膝栗毛始・・・1802＝ 9歳：

間宮海峡発見1808＝15歳：この頃から、農業に従事、

コ・ロブ・ニ・ン拿捕 1811＝18歳： 秋田藩校への入学を希望するも、経済的理由で反対され、
南部鎌の製法を研究するため、南部領毛馬内の鍛冶屋に弟子入り、

浮世床・・・1813＝20歳： 修業を終えて帰郷すると、鍛冶工場を設立、優れた鎌を製作して、農民に喜ばれると、材料となる鉄を研究しようと、南部領内の鉱山に入って、製鉄技術も身に付け、さらに、鉱山経営にまで乗り出そうとして、資金が無く断念するが、測量や掘進の技術・知識を獲得して、
・・・1815＝22歳： 江戸へ出奔すると、町奉行根岸肥前守の仲間となり、
伊能測量終・1816＝23歳： 早くも、供頭と近習を兼ねる役に出世するが、
水野忠成老中1818＝25歳：

この間、船越御役屋勤めとなり広大な不毛の地鳥居長根の開墾に着目した伯父から、才能を期待され、父とともに帰藩を催促され、
群書類従完結1819＝26歳： 帰郷。早速現地調査をして確信を得ると、伯父と連名で、藩に開墾許可を願い出、資金は父を説得して、家屋敷を売り払って得ることとし、

・・・1820＝27歳：
蝦夷地直轄終1821＝28歳： *許可を得ると、藩の郡方開発担当支配のもと、事業に着手、さまざまな苦難を率先して克服し、
シ・ボ・ル来日・1823＝30歳： まず、水路2000mを開通させる。
異国船打払令1825＝32歳： 伯父が病死するも、作業員を励ましながら工事を続け、藩から新村“渡部村”建設の許可も出、
・・・1826＝33歳： ついに、通水路が鳥居長根まで到達、募集した移住者146人で渡部村が発足、男鹿半島巡回中の藩主佐竹義厚が立ち寄り、拝謁して開発の労をねぎらわれる。村法の制定や市場の整備等で、将来への道も開き、
開発が藩にも大きな貢献となったことから、

シ・ボ・ル事件・1828＝35歳：
シ・ボ・ル追放・1829＝36歳： *士分に取り立てられるとともに、永近進並の待遇を与えられ、藩の開発取調役加勢になると、

秋田六郡の開発・殖産等に参画して手腕を発揮、

・・・1836＝43歳： *その功で、永近進に抜擢された。
大塩平八郎乱1837＝44歳：
適塾ホ・ン・ 1838＝45歳：

阿部正弘首座1845＝52歳：

・・・1847＝54歳：

万次郎帰国・1852＝59歳： 藩主義睦から栗毛の馬を拝領するという破格の優遇を受けて後も、なお事業に取り組み、
ペリー来航・1853＝60歳：
新田2000ha・古田1700haに及ぶ開墾を成し、水利確保・築堤治水等、十二箇所の大工事を完成して、
安政大地震・1855＝62歳： 藩から、余生を久保田城下で送るように勧められるも、渡部村の人たちとともにいたいと固辞し、
松下村塾・・・1856＝63歳： 没した。村民からこぞって哀悼され、渡部神社を建立して、その霊が祀られた。

「人づくり風土記(秋田)」、